

タブレット導入により手書き中心の記録からタブレット入力に移行 メモを活用した情報伝達からICTを活用した情報共有・伝達へ

社会福祉法人慶徳会 障がい者サポートセンターしみず（生活介護・短期入所）

ICT導入前

- 支援記録を含めほとんどの記録を手書きで行い、支援中はメモをとって後から記録用紙に清書していたため、二度手間になっていた
- 後から清書するため、リアルタイムで記録の確認ができなかった
- 感染予防対策として、1日2回の検温の結果をメモから支援記録に転記する必要があった。

タブレット
ソフトウェア
導入

iPad 3台
赤外線体温計 3台
ほのぼの「ケアパ
レット」
Wi-Fi環境の整備

ICT導入後

- ①業務の質の向上
 - ・メモからタブレットで直接記録できるようになり、後から清書する必要がなくなった
 - ・事業所内のどこにいてもリアルタイムで情報の共有・伝達ができるようになった
- ②量的な効率化
 - ・記録用紙や印刷代が減少した
 - ・後から転記しなくなったため、その時間を支援時間に充てることができた

業務効率化の推進

- ① 現場で使用している記録用紙やメモの活用方法を確認し、タブレット入力が可能かどうか話し合いを行い、記録用紙やメモを使用するデメリットやメリットについて聞き取りを行った
- ② ①を踏まえて使用部署や台数、使用方法を決定した
- ③ ICT推進担当者を決め、まずは担当者で運用を開始し、1か月ほど使用して慣れてきたところから担当者中心に勉強会を開催し、他の職員に使用方法の伝達を行った
- ④ 運用しながら、使用方法の見直しを行い、より使いやすくなるよう改善を行った

職員の声など

- ・ 支援中にメモしたことを改めて清書する必要がなくなったので二度手間にならず楽になった
- ・ 伝達忘れの防止とその場にはいない職員でもリアルタイムで引継ぎ事項の確認ができるようになった
- ・ 感染予防対策のために1日2回検温し、測定結果をメモに取って清書していたが、測定結果が送信されるため、メモも清書も必要なくなった
- ・ タブレットやソフトに慣れるまで時間がかかる
- ・ タブレットの導入台数の検討
- ・ ソフトのカスタマイズに限界があり手書きの方が使いやすい書類もある

